

# 目 次

|  |     |
|--|-----|
| OECF の事後評価                             | 1   |
| A) 事後評価の目的                             | 1   |
| B) OECF の事後評価活動                        | 1   |
| C) 事後評価の位置づけ                           | 2   |
| D) 事後評価の種類                             | 3   |
| E) 事後評価対象事業の選定                         | 4   |
| F) 事後評価の項目                             | 4   |
| 今回の報告書の内容                              | 5   |
| A) 掲載対象事業                              | 5   |
| B) 1994 年度の事後評価事業の特徴                   | 5   |
| C) 掲載対象事業の概要                           | 6   |
| D) 国際協力事業団との連携状況                       | 8   |
| 1994 年度の事後評価報告                         | 9   |
| 《詳細評価》                                 |     |
| ①タイ：小規模湖沼漁業開発事業                        | 11  |
| 研究レポート／「小規模プロジェクトの維持管理における住民参加」(武藤めぐみ) | 29  |
| ②韓国：下水処理場建設事業・インパクト調査                  | 43  |
| 研究レポート／「開発途上国における下水道事業の留意点」(池邊弘昭)      | 69  |
| ③ミャンマー：バルーチャンNO.1水力発電事業                | 83  |
| 研究レポート／「ミャンマーの電力セクター調査」(池邊弘昭)          | 99  |
| ④パキスタン：ビン・カシム火力発電所増設事業                 | 121 |
| 研究レポート／「電力セクターの民活民営化」(四谷収治)            | 139 |
| ⑤ガーナ：民間投資促進計画                          | 173 |
| ⑥ブラジル：セラード灌漑事業                         | 201 |
| 研究レポート／「開発金融手段としてのツーステップローン」(浜田健一)     | 223 |

---

《事務所及び机上評価》

|   |   |     |
|---|---|-----|
| ① | タイ：コンケン上水道拡張事業                                      | 247 |
| ② | タイ：メモ火力発電所8,9号機増設事業                                 | 249 |
| ③ | インドネシア：チラチャップ紡績工場修復事業                               | 251 |
| ④ | マレーシア：半島ガスパイプライン事業計画（第2期）                           | 253 |
| ⑤ | フィリピン：ミンダナオ送電線事業                                    | 255 |
| ⑥ | 韓国：大田上水道拡張事業（Ⅲ）                                     | 257 |
| ⑦ | インド：硫安・カプロラクタムプラント 建設事業<br>FACTコチン 肥料工場自家発電プラント増設事業 | 259 |
| ⑧ | ミャンマー：製鋼所拡張事業                                       | 261 |
| ⑨ | バングラデシュ：ジャムナ肥料工場建設事業（Ⅰ）～（Ⅲ）                         | 263 |
| ⑩ | スリランカ：電気通信網拡充事業                                     | 265 |
| ⑪ | ナイジェリア：アナンブラ河下流域灌漑事業                                | 267 |

---

## はじめに

1994年における我が国の政府開発援助（ODA）は、134億7千万ドルを記録し、前年に引き続き世界の規模となりました。海外経済協力基金（OECF）は、我が国のODAのうち二国間政府貸付（円借款）を担っており、これまで多くの開発途上国が取り組むさまざまな開発事業等を支援して参りました。

OECFは開発途上国の資金ニーズに対応する形で融資規模を拡充する一方で、融資した開発事業のフォローアップ、アフターケアである事後評価・事後監理を行う体制についても、1981年以来順次整備して参りました。

1993年よりOECFの事後評価は、開発援助研究所評価グループが行っています。当研究所における事後評価は、単に個別事業の効果発現状況について調査するだけでなく、現在まで蓄積されてきた多種多様な事業の評価実績・経験を活かして、各セクターの政策のありかたや開発途上国側の実施機関の組織発展の問題、さらには最近注目を集めている民活インフラ案件等、およそ開発に関わる広範な課題を取り上げることで、持続的な効果をもたらす質の高い開発援助に役立ててゆくことを目的としております。また、当研究所の他のグループ（援助理論研究グループ、国別地域別テーマ研究グループ、セクター別テーマ研究グループ）と連携し、より多角的な視点から調査研究を押し進め、開発援助研究と事後評価との「有機的連携」を図るべく努力しております。

本報告書は、1991年度以来5冊目を数えます。今回の報告書には、1994年度に実施した評価の全報告書を掲載するとともに、評価と同時に実施した特定テーマに係る研究論文も併せて掲載し、当研究所の研究成果の一端を紹介しています。また、円借款の成果と基金の事後評価活動への理解をより深めて頂くよう、「机上評価」、「事務所評価」についても収録しております。

本書の内容は、相手国のご協力のもと、当研究所が取りまとめたものです。なお、文中、意見にわたる部分については、当該事業の一層の効果発現、将来の類似事業のより効果的・効率的な実施のために、調査分析を担当した執筆者個人の見解を述べたものであることをお断りしておきます。

最後に、OECFの調査研究活動に対する関係各位の日頃のご支援、ご協力に心より御礼申し上げますとともに、今後とも引き続き、より質の高い研究とすためのご示唆、ご意見を頂ければ幸いです。

開発援助研究所  
所長 篠塚 徹